

バリクールスプレー 技術資料

一般性状

外観	無色透明液体
比重（15℃，原液）	0.67 g/cm ³
動粘度（40℃，原液）	0.76 mm ² /s
引火点（原液）	0℃以下

冷却性調査

＜方法＞

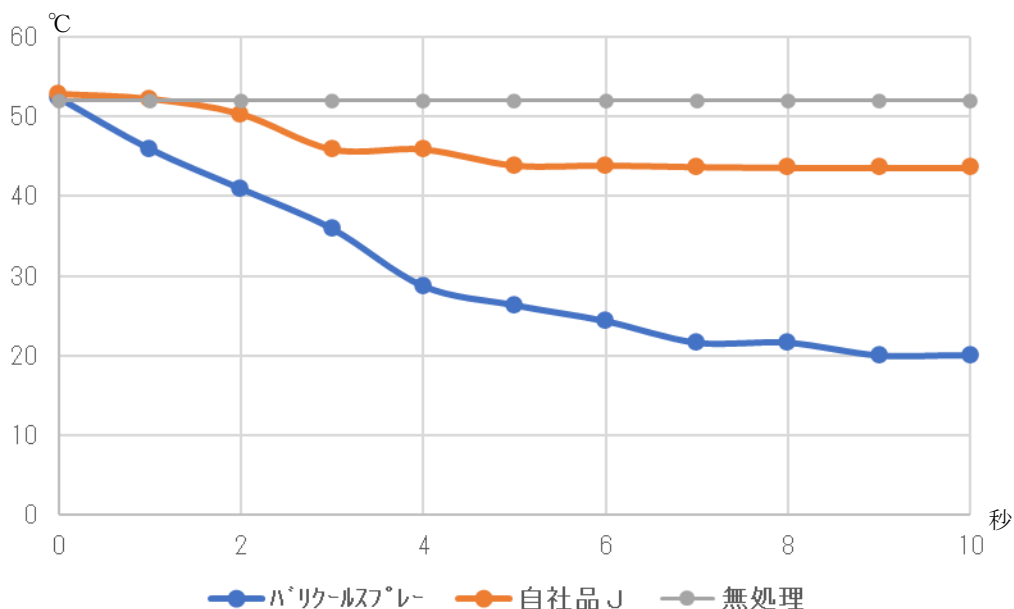
バリカン(WAHL)の刃に温度計を付け、50℃になるまで稼働させた後、バリクールスプレーを2秒間スプレーし、10秒間の温度変化を測定しました。

比較対象として自社品Jと無処理で同様の試験をおこないました。

＜結果＞

試験結果を図一1に示します。

自社品Jは10秒間で10℃の冷却に対し、バリクールスプレーは30℃冷却しました。



図一1 冷却試験結果

防錆試験

<方法>

湿潤試験（JIS K 2246）：バリクールスプレーを被覆した SPCC-SB 鋼板を 49℃、相対湿度 95%以上の湿潤状態の装置内に保持し、発錆するまでの時間を調べました。

<結果>

168時間A級とNP-0相当（屋内約3ヶ月防錆力）の結果が得られました。

乾燥試験

<方法>

バリクールスプレーを1秒間スプレーし、30秒間の残留を観察しました。
比較対象として自社品Jで同様の試験をおこないました。

<結果>

スプレー直後と10、20、30秒後の写真を図-2に示します。
バリクールスプレーは跡形なく乾燥したのに対し、自社品Jはほとんど残留していました。

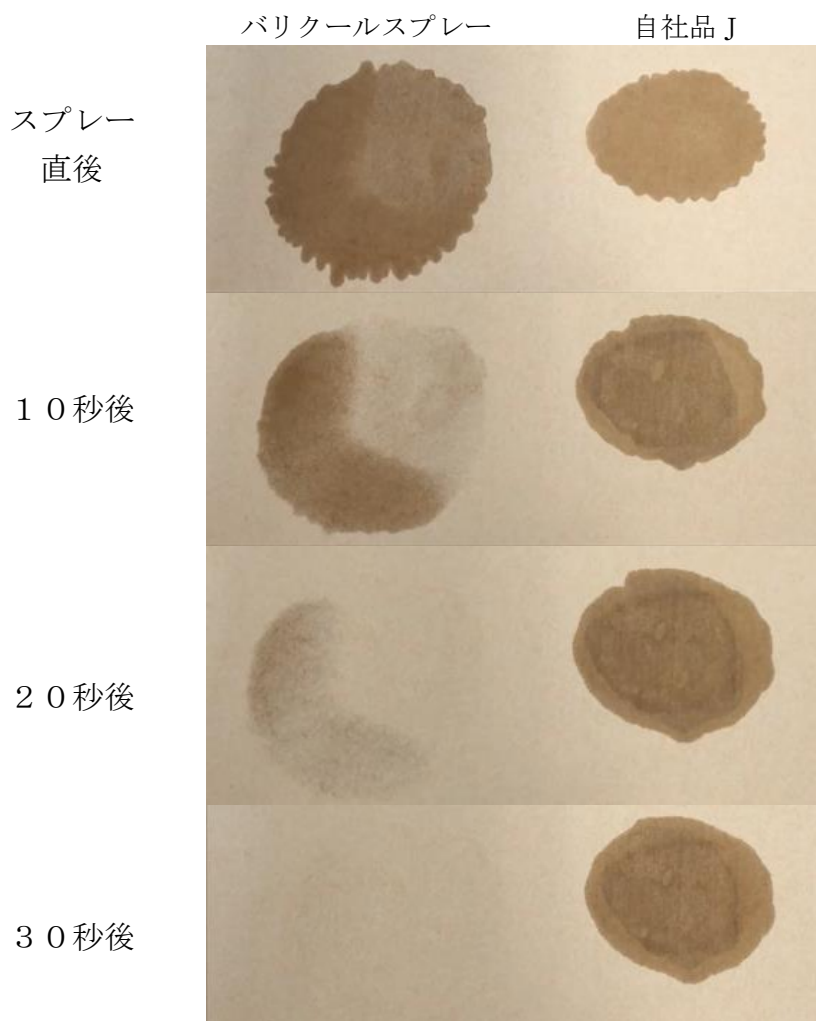


図-2 スプレー後30秒間の写真

バリカン部品（ゴム・樹脂）への影響試験

<方法>

バリカンへの使用が想定されるシリコンゴムとフッ素ゴム(25x40x1mm) とABS樹脂 (25x40x3mm) にバリケールスプレーを1秒間塗布。それを20回おこなった後の重量・容積(厚み)・外観変化を観察し、シリコンゴム・フッ素ゴム・ABSへの影響を表-1の判断基準で評価しました。

また、比較対象として他社品Aで同様の試験をおこないました。

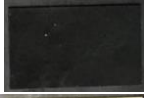
試験は各2反復でおこないました。

表-1 ゴム・樹脂への影響試験の判断基準


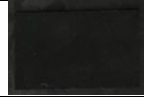

評価	優	良	可	不可	×
重量変化	±2%	+2~+14% -2~-3%	+14~+19% -1~-4%	+19~+30% -4~-10%	+30%以上 -10%以下
容積変化	-0.5~+2%	+2~+6% -0.5~-1%	+6~+13% -1~-3%	+13~+30% -3~-10%	+30%以上 -10%以下
試料及び液の変化	変化なし	軽微の変化	僅かの変化	かなり変化	著しい変化

<結果>

バリケールスプレー塗布

ゴム・樹脂名	重量変化	容積変化	試料・液の変化	評価
シリコンゴム 	+0.6%	+3.9%	変化なし	良
フッ素ゴム 	+0.1%	0%	変化なし	優
ABS 	+0.1%	+0.2%	変化なし	優

他社品A塗布

ゴム・樹脂名	重量変化	容積変化	試料・液の変化	評価
シリコンゴム 	+2.3%	+2.9%	かなり変化	不可
フッ素ゴム 	+1%	+2.2%	変化なし	良
ABS 	+1.9%	+3.8%	著しい変化	×

バリケールスプレーは、他社品Aとは対照的にゴム・樹脂への影響は見られませんでした。